

授業評価 2013 (前期) T1: 工学部

syll mkjhytex.pl Ver 2.61(2013-12-11) by Yas

2013 年度前期 工学部 授業評価 目次

授業コード	授業科目名	開講時限等	担当教員	ページ
T1Y016001	造形演習	1 年前期火曜 5 限	植田 憲	T1 1
T1Y016003	造形演習	1 年前期火曜 5 限	玉垣 庸一他	T1 2
T1Y016005	造形演習	1 年前期火曜 5 限	UEDA EDIL- SON SHINDI	T1 3

授業科目名	: 造形演習
担当教員	: 植田 憲
年次・開講時限	: 1 年前期火曜 5 限
授業コード	: T1Y016001
授業アンケート	: 回答者数 38 人 / 受講者数 51 人 (回収率 75%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q8. Q7 の評価が「はい」でない場合、その原因に該当するもの全て選択して下さい。(回答 10 件)
教室が不適切との声が聞かれた。改善を試みたい。

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか?(回答 38 件)

授業の進度については、適切/不適切の評価が割れる結果であった。しかしながら、いわば「汗かき」の体験を強いるものであり、その趣旨が理解できるか否かに大きく影響を受けているものと思われる。

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか?(回答 38 件)

出席率はきわめて高かった。これは、演習という授業形態のためでもあるが、学生が互いに学び合うという授業のねらいにはきわめて合致していると思われる。「課題が多い」「進み具合やや早い」といった回答が寄せられているが、これは、「ものづくり」における「汗かき」の重要性を感得してもらうことを加味し、あえてやや高いハードルを設けたためである。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

概ね、課題が多く本授業への評価が大きく分かれていた。与えられた条件を正しく理解し、与えられた時間を十分に活用し、さらには、自宅に持ち帰ってでも「ものづくり」に精魂を傾けるといって、いわば「汗かき」の体験を通して、自らが「十分な仕事を成した」と実感できることこそが重要だと考え授業計画を作成したためであると思われる。

3. その他のコメントや連絡事項

本授業への評価が大きく分かれている。達成感が人によって大きく異なったためであろうと思われる。より多くの学生が達成感を得られるよう、工夫をしたい。

作成(者): 植田 憲

授業科目名	: 造形演習
担当教員	: 玉垣 庸一, 下村 義弘
年次・開講時限	: 1 年前期火曜 5 限
授業コード	: T1Y016003
授業アンケート	: 回答者数 36 人 / 受講者数 48 人 (回収率 75%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか? (回答 33 件)

出席率に関しては 4.88 と高い評価になっています。

Q22. 実験・実習科目をグループで行った場合, 班の人数は適切でしたか? (回答 18 件)

グループでの課題を授業の前半に導入しました。この項目の評価は 4.83 と高く, 多学科の学生がグループで交流できるきっかけとなることを望みます。ちなみに, 造形演習の授業で知り合った他学科の学生と結婚したという目出たい話もあります。

Q13. あなたは毎回の授業の準備学習・復習に平均してどの程度の時間をかけましたか? (回答 32 件)

この項目の評価は 2.62 とかなり低めです。教室での作業が中心となる授業内容なのでやむを得ない面もありますが, それにしても低いですね。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

Q13, Q14, Q26 を除いて評価値は 4.0 を上回っています。Q14 は質問回数に関する項目です。まじめに出席してはいるけど受動的に受講しているという姿勢が浮かび上がります。授業への積極的な参加が望まれます。

3. その他のコメントや連絡事項

満員電車でスケッチブックや作品を潰されそうになるので, 大学内にロッカーなどを設置してほしいという意見が学生から寄せられています。

作成(者): 玉垣庸一

授業科目名	: 造形演習
担当教員	: UEDA EDILSON SHINDI
年次・開講時限	: 1 年前期火曜 5 限
授業コード	: T1Y016005
授業アンケート	: 回答者数 30 人 / 受講者数 44 人 (回収率 68%)

1. 選定された授業アンケート項目に対する回答

Q11. 授業内容の量を考慮すると、進度は適切でしたか? (回答 27 件)

15 週 4 課題は決して多くはなく学生によっては授業中の作業ペースには余裕がみられており、課題の難しさの程度と作業量等の回答の値については、演習の特性上、適度なものと判断する。授業時間内での発言は平均だが高くはない。

Q12. あなたはこの授業にどの程度出席しましたか? (回答 28 件)

出席の程度から (回答数: 28, 平均: 4.82) 授業への興味、授業への満足、演習課題への興味、学生が関心と意欲をもって取り組んだことがわかる。教員による、授業内容の理解を助ける工夫、興味を持たせる工夫、授業への熱意、授業準備と指導姿勢は高く評価されている。

Q22. 実験・実習科目をグループで行った場合、班の人数は適切でしたか? (回答 10 件)

演習への説明や手順のわかりやすさ、何を学習すべきかの確に示したか演習の目的を理解できたかについては全体平均とほぼ同等だが 3 点台であり、デザイン造形作業にはじめて接する学生への課題説明には、44 人多すぎるので改善の余地がある。

2. 授業アンケート全体に対するコメント

アンケート結果全体に対して、授業の内容、授業目標の達成度、受講生の学習到達度などへの意見・説明などを自由に学生に向けて記述して下さい。

本演習は、デザインにおける立体造形力の基礎となるモデリング技術、立体構成力を身につけること、また、材料特性を理解することを目的とする。本年度の三番目の課題は、「水、火、土、風」の中から一つを選び、自由に形を創ろう」というテーマでした。目的のテーマは、イメージのアイデアスケッチ・簡易図面を描いたり、プラバンを自由に削り、テーマを形で表現する。テーマを 3D 造形表現・オリジナルのアイデア展開をする。四番目の課題は、「Biophotovoltaics」というテーマでした。目的のテーマは、バイオ 太陽光発電の新しい取り入れ方 デザインコンセプトや造形を考える。機能を持つオリジナルデザイン、アイデア展開、連続曲面により構成し、アイデアスケッチ・および簡易図面描き、プラバン、プラスチック、などを自由に削り、テーマを形で表現をする。抽象的な造形から現実の生活に則した具体的な造形と進めるように段階を経て造形作業における視点の総合化へと制作要件を課した。それぞれの制作において、構想 - スケッチ (視覚化) - スケッチ検証・評価 - モデル制作 (具体化) - プレゼンテーション - 講評 (評価) というプロセスを経験することで、発送したのから具体物を形成していくというデザイン作業の基軸プロセスに親しむことを重視している。アイデアスケッチ段階では、アイデアの視覚化 確認して、自ら刺激を受けることで次のアイデアを発想する。プロセスを理解させるために、不慣れなスケッチ作業を取り入れ、どんどん描けるよう指導していった。その結果、出席平均 4.82% (回答数: 28)、作品制作に 4 時間以上が 3.71% (回答数: 28) という真面目な学習振りでよく講義が分かり易かった 46.7% (回答数: 30) ということにつながった。

3. その他のコメントや連絡事項

基礎造形作業には知識を学ぶ側面もあるが、重要なのは自ら創造する行為としての訓練である。

解法を求めるのではなく、解の可能性を模索して試みる、そのことを学生全員に感得させていくために、課題設定、説明、ディスカッションのありかたを工夫していきたい。

難しい課題であったが、一人ずつの学生がアイデアを出し、それを作品にする姿は、輝いて見え、こちらも楽しく授業ができた。

作成(者): Ueda Edilson Shindi